

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 8
- 04 **特集 港湾・海上保安**
自由に安全な海と港
- 06 さらなる発展を続ける貿易の玄関口 **カンボジア**
- 12 **港湾の整備**
機能を向上させて荷役作業の効率アップ **アンゴラ**
- 14 **海上交通の安全**
難しい海峡の航行をVTSでサポート **インドネシア**
海図作製の人材育成
- 18 **海上の保安**
監視・取り締まりや海難救助の
能力向上を図る **フィリピン、マレーシア**
高度な教育で政策を学ぶ
衛星データの活用で進化する海洋監視
南アフリカ共和国
- 22 **特別授業**
海上交通の拠点「港湾」への総合的な協力
- 24 **JICA海外協力隊がゆく Vol. 7**
エジプト
- 26 **世界につながる教室④**
心に響く体験活動で学びを深める
- 28 **地球ギャラリー Vol. 129 ミャンマー連邦共和国**
写真・文●渋谷敦志 フォトジャーナリスト
明るい街、にぎわう夜
- 34 **教えて！ 外務省**
知っておきたい国際協力⑨
- 36 JICAイベントカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 **わたしが見つけたSDGs Vol. 9**



マレーシアにおける海上保安能力向上プロジェクト。海上パトロールに出航する前の様子。写真：安田葉津紀 / Dialogue for People



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust

港を通して 運ばれるモノ

プロローグ
Vol. 8

文・井上清司

東アフリカに位置するケニアの首都ナイロビから、国内線の飛行機で約1時間。車で走るとモンバサ・ロードを通過して約490キロ、約9時間。ケニア第2の都市モンバサは、インド洋沿岸の半落葉熱帯降雨林の向こうに見えてくる。特有の湿った空気と、スワヒリ文化の面影と、内陸部からの近代化がごちゃ混ぜに同居する街。その東アフリカの玄関口がモンバサ港だ。

東アフリカ地域最大規模のモンバサ港は、ケニアだけでなくウガンダ、ルワンダ、ブルンジなどの内陸の国々にとっても重要な港で、近年では東アフリカの経済発展に伴い、貨物の取り扱い量もこの10年程度で約2倍に膨れ上がっているという。

私とモンバサ港との接点は、日本から送られてくるモノの受け入れだ。それは、日本の子どもたちから寄贈された中古のシューズをケニア国内のスラムの小学校の子どもたちに届けるプロジェクトで、私は、港に到着したシューズでいっぱいコンテナの通関や、ナイロビへの輸送を業者に依頼することなどに関わっている。今まさに通関手続きが行われており、数日後にはナイロビでの受け入れ作業をしようとしている。

2010年には、ナイロビで行われたマラソンイベントの先導車として、日本のソーラーカーを一時輸入する仕事もした。90年代には個人や会社の車を日本から輸入したこともあったので、考えてみるとモンバサ港には、中古車、中古シューズ、ソーラーカーを介して関わってきたことになる。

モンバサ港があるこの地域では、紀元前から金、象牙、サイの角、べつ甲、ヤシ油などを輸出し、アラビア半島やインドと交易を行っていた。13世紀から15世紀に東アフリカの交易都市が最も繁栄していた頃には、アラビア半島やインドのほか、中国や東南アジアとも交易を行い、多様な人々がこの地を訪れ、中国の陶磁器などの贅沢品も取引



イラスト●中村知史

されていた。1505年以降のポルトガル勢力による略奪と支配を経て、1698年にオマーンがポルトガル勢力を駆逐。19世紀に入ると、オマーンのサイード王が現タンザニアのザンジバル島を首都として海上帝国を築いており、この頃の代表的な東アフリカからの輸出品は奴隷だった。奴隷たちはモーリシャスのサトウキビのプランテーションやアラビア半島、インドに向けて輸出され、綿布、ビーズ、武器弾薬などが輸入されたという。最近では、08年にモンバサに向かっていたウクライナの貨物船がソマリアの海賊に乗っ取られ、積み荷が戦車32両と多数の武器であったために大きなニュースとなった。結局この戦車や武器は、翌年にモンバサ港に陸揚げされたのだが。

現在では、石油製品、産業用機械、自動車や鉄鋼などさまざまなモノが輸入され、紅茶、コーヒー、衣料品・アクセサリーなどが輸出されている。そのモンバサ港は、円借款事業の「モンバサ港開発事業」によって新コンテナターミナルが16年9月に開港した。そして「モンバサ港開発事業フェーズ2」も始まっていて、それはケニア国内でもニュースとなった。また、「モンバサ港周辺道路開発事業」も進められていて、それによって造られた、街を迂回するバイパス道路によって、交通渋滞の緩和や陸上輸送の効率化にも貢献している。

日本が支援する開発事業では、特殊鋼材や地盤改良技術など日本企業の技術が活用されている。他国の支援で作られた隣のターミナルでは、コンテナを列車に積むクレーンが地盤沈下によって傾き、使用不能になっている。見た目では違いがわからないが、やはり日本の支援は縁の下の力持ちのごとく、地味に素晴らしい。未来のモンバサ港では、どんなモノが通過していくのだろうか。

井上清司(いのうえ・せいじ)

ケニアのマサイマラに建つホテル「ムバタ・サファリ・クラブ」を運営する「ムバタ・インベストメント」リージョナル・ディレクター。1992年からナイロビ駐在のテレビカメラマンとして活動。NHK「生き物地球紀行」、TBS「世界遺産」、放送大学特別講義などの撮影でアフリカ20か国を巡る。2006年にムバタ・インベストメント社長に就任。18年より現職。